1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200912		
法人名	社会福祉法人 平成記念会		
事業所名	グループホーム本郷		
所在地	山口県岩国市本郷町本郷2086番地		
自己評価作成日	令和元年12月27日	評価結果市町受理日	令和2年5月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和2年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は山間部の町、本郷にあります。高齢化が進んでいる地域ですが、祭りなどの行事が盛んに行われている伝統ある町です。ご入居者にも積極的に参加させていただいており楽しく生活をおくられております。
 食事の準備や掃除・洗濯などを女性ご利用者を中心に職員と協力して行き日々を過ごすとともに、買い物などの外出も定期的に行い楽しんでいただいております。
 また小さいながらも畑があり、ご利用者とともに芋や豆などを育て収穫し田舎ならではの生活を送っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は散歩や郵便局に出かけて地域の人と話をしたり、山代夜市、火花大会、ふるさとフェスタ、近隣老人施設の盆踊り大会、地域合同運動会や高齢者運動会などたくさん地域行事に参加され、地域住民と交流されています。保育園の園庭開放日の園児との交流、休校マルシェでの買い物、高校生との茶摘み体験、地域サロンへの参加など地域の社会資源を有効に活用されて、利用者が色々な場面で地域と繋がりが暮らしておられます。利用者の誕生日には、ふるさとドライブツアーや自宅での誕生会開催など利用者へ寄り添った企画を実行されたり、野球観戦や買い物ツアーなど個別外出を支援されています。利用者の希望を取り入れ、鍋パーティーやラーメン・チャーハン祭、押寿司づくり、おやつづくりなど職員と一緒に調理しながら食べることを楽しむ機会を色々工夫されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を掲示することで共有すると共に、毎月その理念に沿った目標を職場会議の場で考え、毎朝唱和し、実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を事業所内に掲示している。毎月の職員会議で理念を基にした活動目標を決めて、毎朝の申し送りで唱和し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の祭りやイベント等に積極的に参加して頂けるよう支援している。また、職員も地域のボランティアに出向くことで交流を図っている。	利用者は、地域行事(山代夜市、花火大会、ふるさとフェスタ、休校マルシェ、保育園・小・中学校・地域合同運動会、高齢者運動会、隣接老人施設の盆踊り大会、高校生との茶摘み体験など)への参加や併設特別養護老人ホームとの合同運動会、週2回の保育園園庭開放日の交流、地域サロンに地元出身の利用者が参加するなどして地域住民と交流している。併設施設に来訪するボランティア(フラダンス、ポップダンス、和太鼓、保育園児の竹太鼓)や年に数回来訪する保育園児と交流したり、岩国市地域密着型施設対抗の風船バレー大会に参加している。利用者は散歩や郵便局、理容店を利用している他、職員は草取りや道づくり等の地域ボランティアに参加したり、管理者がご近所支え合い会議に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場において、地域の方に認知症についてや自分たちが行っている介護内容等を話させて頂き、疾病理解に努めている。また散歩や買い物等地域に出て行くことで地域からの理解を深めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価で自分たちが取り組めていない事や改善しなくてはならない事を考え、外部評価でその改善方法や新たな課題等のアドバイスを頂き、日々より良い運営ができるよう取り組んでいる。	管理者は評価の意義について職員に説明している。全職員が自己評価の用紙に記入したものを各ユニットごとにまとめ、最終的に管理者がまとめている。評価を通して、自分達の課題を目標達成計画にたて、できるところから改善に取り組んでいる。	・評価の意義の理解

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの中で構成員の方から様々なアドバイスや地域の情報をいただく中で、今年度は新たに地域サロンへ数名ではあるが利用者が参加するようになる等、サービスの向上に繋がっている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、行事予定と報告、ヒヤリハット・事故報告、事業所の取り組みなどの報告の後、意見交換をしている。社会福祉協議会本郷支部からの参加が増え、地域の社会資源について情報交換を行い、利用者が地域のサロンに参加したり、祭りへの出店の声かけがあるなど活動が広がっている。地域包括支援センターから研修や地域ケア会議の情報提供があるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。会議録は玄関に置き、いつでも閲覧できる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に本郷支所職員をお招きしており、ちょっとした相談などは気軽にできる環境となっている。	市担当者には更新の手続きや相談に直接出向いて、助言を得ている他、電話やFAX、メールで情報を得たり、地域密着型サービス事業者連絡会議時に情報交換するなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や地域ケア会議時に情報交換を行い、電話などでも日頃から連絡をとり、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会において3ヶ月に1回以上話し合いの場を設けると共に、年2回身体拘束についての勉強会を行っている。また、外部研修にも積極的に参加している。出入り口の施錠に関しては、オートロック式となっておりご利用者の外出の要望時に開錠している。	職員は、年2回内部研修で身体拘束について学ぶと共に、3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催して職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関はオートロックであるが、外出したい利用者には職員と一緒に出かけるなど、閉塞感を持たない環境づくりに努めている。スピーチロックについては、職員間で注意したり、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2度の事業所内勉強会を行い、外部研修にも毎年職員を派遣し学ぶ機会を設けている。また、入浴等の際利用者の全身を観察し、不審な痣が無いことや、職員の言動が、精神的虐待にあたらないか注意し、虐待防止や早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内勉強会や外部研修で学ぶ機会を設けている。制度による支援が必要と思われる方には情報の提供等行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当施設で対応可能な事と出来ない事、家族に協力頂く事等、十分説明を行って、不安や疑問を解消し、理解・納得頂いている。ご入居後もご利用者の状態の変化など家族が不安に感じる状況になるごとに今後の相談をして不安の解消に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日頃の言動から思いを察し、出来る事から改善に取り組んでいる。家族からは面会時等に意見を伺ったり、不定期ではあるがアンケートを実施している。また、苦情・相談があった際には報告書を作成し職員に周知し改善に努めている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。面会時(利用料支払い時)、運営推進会議時、電話などで家族からの意見や要望を聞いている。毎月の事業所だよりに加えて、担当職員が書いた利用者の近況やカンファレンスの記録や支援経過記録を一緒に送り、面会時には職員が日頃の様子を伝えて、家族が意見や要望を出しやすい環境づくりに努めている。家族からの要望や意見は、管理日誌に記録し、職員間で共有し、ケアについての意見や要望は、その都度話し合っって対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職場会議の場だけではなく、職員が日頃から意見や提案を出せる環境を作る努力はしている。	管理者は月1回の職員会議や毎日の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員からは畑で収穫した芋を活用した企画や食事にプラス一品、自宅での誕生日会開催などの意見や提案が出され、その都度職員間で話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時帰宅、有給の積極的利用推進、処遇の改善等 労働環境の向上に気を使っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップに関しては各種研修や資格取得のサポートの為、講師を招いて講義を開いてくれる等手厚い。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を設け、受講後は復命書を提出し、内容によっては職員会議で報告している。法人研修は、介護技術者研修と介護知識研修が年1回開催され、希望者が出席し、修了後に伝達研修をしている。内部研修は、月1回、法令遵守と職員倫理、食中毒予防、高齢者虐待、身体拘束廃止などテーマを決めて実施し、受講後は全員がレポートを提出している。新人研修は、初任者研修の他、「新人教育実施確認一覧」に沿って担当職員が教育している。資格取得については、勉強会の開催や受講費の負担など働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市地域密着型事業所連絡協議会へ参加し、協議会の場において情報や意見の交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から、これまでの生活習慣を確認するなどして、入居時の居室内家具配置など共同生活が始まるにあたりなるべく不安を感じないようにサービスを導入できるよう配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の不安や思い等を伺い、安心して申し込みが出来るよう努めている。また契約時にはしっかりと信頼関係を構築することで、相談しやすい関係を維持する努力を行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みはお受けすると共に、他のサービス利用が必要と思われる場合は助言や紹介を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯、掃除等の家事仕事を利用者個々の能力や得意分野で判断し、それぞれが役割を持って職員と一緒に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族の間で本人の状態の認識にギャップが生じないように日頃から連携をとるよう努め、その上で家族と共に本人を支えるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域サロンへの参加支援や自宅へドライブに行くなどして入所前の知人との交流支援を心がけている。	家族の面会や親戚、友人、近所の人の来訪がある他、電話の取り次ぎや年賀状、暑中見舞い、手紙での交流を支援している。馴染みの美容院や理容院の利用、地域のサロンでの仲間との交流、ふるさとドライブツアーで自宅周辺のドライブ等に出かけている。家族の協力を得て、法事への出席、お墓参り、自宅への外出、買い物、外食などに出かけて馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、それぞれが孤立する事やストレスを感じる事の無いように配慮し、交流の橋渡しを行うなどして支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から伺える場合はしっかりと傾聴し、難しい場合は家族にセンター方式を記入頂き、そこから本人の意向や思いを酌んでいる。	入居時のセンター方式のシートやアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の状況や言動を介護記録(電子カルテ)に記録して、思いや意向の把握に努めている。記録は管理日誌にも連動しており、職員間で情報の共有ができています。困難な場合は、家族からの情報を元に職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃から本人から何うと共に家族や面会に来られた親戚や友人知人から昔話を何うなどして把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員各々が毎日の状態や気付きを記録し、それを申し送る事で全職員が共通して把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、担当者が中心となり、関係者と連携を取りプランを立案、作成している。	計画作成担当者と担当職員が中心になってカンファレンスを開催し、利用者や家族の意向、主治医、薬剤師、管理栄養士の意見や他の職員の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、3ヵ月毎に計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録するとともに、職員間で情報を共有して、そのつど必要な対応をとっている。朝夕の申し送り時の議論をプランの見直しに役立てる事が多い。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特色有る個別支援プランを作り、個々の生活に反映できるよう心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のご近所ささえあい会議に参加することで地域資源の把握とグループホーム本郷の認知を広げ、協力体制を作り地域と共に歩むよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望でかかりつけ医を決めて頂いている。基本は協力病院以外の受診は家族対応と説明しているが、本人のADL等で家族だけの受診対応が難しい場合は職員が同行援助している。</p>	<p>協力医療機関の他、利用者、家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は月2回の訪問診療があり、診察結果は家族に電話で報告している。他科受診は、家族の協力を得て、必要時は看護記録を持参してもらるか、口頭で様子を伝え、受診後は家族から結果を聞き取り、職員間で共有している。協力医療機関内の他科受診や、精神科受診、家族の付き添いが困難な場合は、事業所が受診支援をしている。夜間や緊急時は、管理者を通じて、併設施設の看護師の協力や当直職員の支援を得たり、協力医療機関の指示を仰いで適切な医療が受けられる様に支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>気付きや気になる事がある時はヴィラ本郷看護師に相談し、様子を見てもらい、必要に応じて処置や受診指示を受けている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>スムーズな入退院が出来るよう医療関係者との連携に努めている。主治医の山口平成病院の他、もっとも近い総合病院である美和病院とは関係を強く持つよう努めている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に関しては事業所で対応できる範囲を十分に家族に説明した上で理解頂き方針を共有している。終末期においては当事業所ではみとりは行っていない為、どこの時点で医療機関等に居場所を移すか、家族、医療機関関係者とその都度協議している。</p>	<p>重度化した場合に事業所ができる対応について、契約時に利用者と家族に説明している。実際に重度化した場合は、本人、家族の意向を踏まえた上でかかりつけ医と相談して、他の福祉施設や医療機関への移設を含めて方針を決め、全職員で共有して支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書をもとに毎月事故検討委員会で話し合い、再発防止に努めている。 事故発生時の対応については事業所内勉強会で学習している。	対応した職員がインシデント・アクシデントレポートに記録し、全職員に回覧し、翌日の申し送りで伝達して職員間で共有している。ユニットごとに月1回の事故検討委員会で再度話し合い、再発防止に取り組んでいる。事故対応については、「救急搬送対応マニュアル」「事故発生時のマニュアル」に基づいて、応急処置など対応しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練と年1回の災害避難訓練を実施しているが、事業所関係や消防職員だけで現状地域住民の参加は無い。 地域住民参加は今後の課題。	併設施設と合同で、年2回(うち1回は消防署の協力を得て)夜間想定火災訓練を実施し、通報、避難、消火訓練を利用者も参加して行っている。事業所独自で地震や土砂崩れ、不審者侵入を想定した災害訓練を利用者も参加して行い、職員間で意見交換している。自治会長や民生委員の協力を得て、緊急連絡網を作成しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。備蓄品は併設施設で準備し、災害時には事業所を地域の避難場所として提案している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの言葉使いにはならぬよう、しかし家庭的な雰囲気を無くさぬように穏やかな対応を心がけている。	職員は内部研修で学び、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。言葉遣いが気になる場合は、職員間で注意し合ったり、管理者が指導している。個人記録は電子カルテによって管理し、職員には守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせ、思いや希望を表現できる方はしっかり働きかけ、言葉にすることが難しい方は選択式にしたり、「はい」「いいえ」で決定して頂くよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調・機嫌等も勘案し、無理なく過ごせるよう本人の声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き着けの美容院や訪問美容院でのヘアカット、不定期で行われるメイクサービスなどで美の心を忘れない環境を作っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けなどご利用者と職員が一緒に行うなどして、食事が主体的になるよう心がけている。	食事は法人の厨房からの配食を利用し、ご飯、汁物、デザートは事業所で調理している。献立は法人の管理栄養士がたて、年1回アンケートを実施して利用者の好みや要望を聞いている。畑で採れるニラ、ネギ、芋などを食材に利用している。利用者は汁物の具材の下ごしらえ、テーブル拭き、盆拭き、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じ食事で一緒にテーブルを囲んで会話を楽しみながら食べている。利用者の状態に合わせて、きざみやミキサー食にするなど食事形態に配慮している。正月のおせち料理、冬の鍋料理、ソーマン流し、土用のウナギ、餅つき、クリスマスの手作りケーキ、おやつ作り(ホットケーキ、どら焼き、クレープ、おはぎ、月見団子、あん餅、ぜんざい)を楽しんだり、野球観戦でのお弁当、道の駅やゆめタウンでの食事、花見しながらのアイスクリーム、誕生日の押し寿司作りやラーメン・チャーハン祭など職員のアイデアで食べることを楽しむ機会を工夫している他、家族との外食を楽しむ支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録し、食事量や水分摂取量の低下等見られれば、情報を共有し対応している。咀嚼や嚥下に問題がある方は、それぞれに合った食形態での提供としている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行い、また異常時には本郷歯科への受診介助を行い口腔の健康を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々にあった排泄支援を行っている。排泄が難しい状態になっても安易な紙オムツの使用はせず、なるべく紙パンツを使用しトイレでの排泄を援助している。	排泄記録表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに応じた声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、オリゴ糖等便秘によいとされる物の利用、腹部マッサージなどにより自然排便ができるよう心がけており、安易な下剤利用は避けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は2日に一度の入浴となっているが、希望される方には入浴予定ではなくても入って頂いて喜んで頂いている。	毎日10時から11時半、もしくは14時から16時までの間可能で、2日に1回は入浴できるよう、一人ひとりの希望に合わせて支援している。体調に応じてシャワー浴や部分浴、清拭、足湯マシンを使用したり、柚子湯や晩白柚の湯、入浴剤を楽しんでいる。入浴したくない利用者には、時間をずらしたり、人を変えて言葉かけするなど無理強いせずに対応を工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう、日中は活動的に過ごされるよう心がけている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤管理指導を受けることで薬剤師からの支援があり、薬の理解等を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内でのイベントから畑仕事・外出まで、個々の趣味を反映し単調な生活になる事無く楽しんで過ごして頂ける様心がけている。	テレビ(時代劇、相撲、野球、歌番組)やDVD(歌番組、神楽舞)の視聴、新聞、雑誌、広告チラシ、貼り絵、塗り絵、手芸作品作り、季節の作品作り、折り紙、習字、漢字、計算、ラジオ体操、太極拳、ポール遊び、風船バレー、歌、カラオケ、地域のお祭りやイベント、地域サロンへの参加、保育園児、小、中、高校生との交流、ボランティアの慰問などを楽しみ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、モップかけ、手すり拭き、カーテンの開閉、野菜の収穫、鉢植えの水やり、食事の手伝い(野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、盆拭き、下膳、食器洗い)など一人ひとりの活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の希望での外出は難しい状況だが、本人の希望等には計画立てて外出イベント化するよう心がけている。	散歩、郵便局、美容院、理容院、トラックに同乗してゴミ捨て、地域行事への参加、ドライブ(道の駅、羅漢山、カーブ球場など)、季節の花見(桜、菜の花、紅葉)、買い物(ゆめタウン、サンマートなど)、初詣、個別支援(ふるさとめぐり、自宅での誕生日会開催など)を楽しんでいる。家族の協力を得て、自宅への外出、お墓参り、外食など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はなるべく自由に預かり金を使って買い物ができるよう支援をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望あれば自由に利用して頂いている。また、年賀や暑中見舞いをご家族宛てに出して頂くなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光には特に注意し、利用者が不穏な気持ちにならぬよう気をつけている。季節に応じた飾りつけなどにより変化や季節感を取り入れている。	食堂兼リビングは明るく、大きな窓からは山々に囲まれた自然の様子が眺められる。テーブルとイス、ソファ、大型テレビが置かれ、利用者がゆったりとくつろげる場所になっている。廊下には長めのソファが置かれ、利用者同士のおしゃべりの場となっている。壁には季節の作品や習字、行事のスナップ写真、職員の写真などが飾ってある。室内には加湿器があり、温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の人間関係を把握し、それぞれが穏やかに過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気ポットなどの安全性に不安のあるものは遠慮して頂いているが、自宅からの家具等の持ち込みにより馴染みの生活ができるよう心がけている。	テレビ、衣装ケース、衣装かけ、タンス、机、イス、時計、仏壇、化粧品、ブラシ、ひげそり、ゴミ箱、シクラメンの鉢植えなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁には家族や親族の写真、カレンダー、運動会の賞状などが飾られ、利用者にとって居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部は歩行器や福祉用具を安全に利用できるよう配慮し自立して動いて頂ける様に環境整備を行っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム本郷

作成日: 令和 2 年 5 月 20 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	「自己評価および外部評価結果」に対する理解が全職員に十分共有されていない。	「自己評価および外部評価結果」に対し全職員の理解を深め、介護現場に反映することで、よりよいサービスに繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の職員会議時に「地域密着型サービス評価項目ガイド集」を数項目ずつ確認し、職員の理解を深める。 ・ケアプラン作成時に、自己評価の指針に沿ったものである事を確認する。 	12ヶ月
2	36	災害対策において、訓練は施設職員のみで行われており地域との協力体制が形作られていない。	災害対策訓練を近隣住民や施設などと合同で行うことで協力体制を整え、万一の事態に迅速に地域との協力体制がとれるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所の災害対策訓練に、近隣他法人の施設職員や、近隣住民の参加を呼びかける。 ・他法人の施設の訓練に職員を派遣し、つながりを深める。 	12ヶ月
3	35	事故や急病などの緊急時に対応するマニュアルの実践力が全職員には行き渡っていない。	全ての職員が、緊急時の対応についてその場の判断で迅速に対応できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が緊急時を想定した訓練を定期的に行う。 	12ヶ月
4	2	新型コロナウイルスの影響で、地域との繋がりがほとんどなくなっている。	地域とともにこの困難を乗り越える。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響下においても地域との繋がりが無くなることのないよう、新しい関係性の考案と実践。 ・運営推進会議の委員からの助言を積極的に受け入れ利用する。 ・オンライン面会の導入などにより、いつでも気兼ねなく家族や知人と会える環境の整備。 	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。